

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表: 令和元年 8月 15日

事業所名 浜松市根洗学園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	10	17	・合理的配慮や時間による使い分け。・少し余裕を持たせている。・ホールを区切って使用している。・空いているスペースや時間等、調整しながら行っている。・利用順番の確認等行っている。・プログラムやクラス分けを行い部屋を確保している。	・部屋数の不足は、職員会議等で計画的に部屋の調整を行い、帳簿に記入する。
	2	職員の配置数は適切である	13	14	・各部屋4対1の配置を行っている。・職員が兼任しながら療育をすすめている。長期にわたる勤務ができることを大切に考えている。	・一人ひとりの負担の改善、職務により専任職員を置くなどの体制づくりを1週間単位で行う。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	21	6	・個に合わせて構造化をした。・絵カードの活用。・外部講師に環境設定のアドバイスを受けている。・毎日の始業点検。	・段差など改善が必要な所の備品のチェック、設備点検の継続と改善を行っていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	20	7	・朝、子ども達が過ごしやすいように職員の心地よさも含め点検、掃除をしている。・毎日の清掃に務めている。	・設備が古く使いづらい点、照明などの工夫、玩具、備品などの定期的な見直しの実施している。
業	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	20	7	・朝ミーティング、夕刻の振り返りグループ全体で共通認識を持つ機会がある。参加できない職員には記録の確認を呼び掛けている。・会議を職員全員で参加し広く職員へ伝わるようにしている。・毎日付箋に一言書いた物を提出している。・グルーピングを行い、付箋に書きだし皆の意見を拾い、それを貼りながらまとめていく。	・少人数グループを形成し話し合いの場を設ける等の工夫を行っていく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	23	4	・書式化した物を全職員が目を通し、一人ひとりが意識できるようになっている。・保護者より回収したアンケートを公開し、懇談会で返答を行っている。・アンケートを実施し集計を行い意見に対する答えを共有する場を設けている。	

業務改善	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	17	10		<ul style="list-style-type: none"> ・毎回実施しているアンケートを今後の運営に活かし変更していく ・ホームページ等活用していく。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	25	2	・研修と言う形でも職員の資質向上に務めている。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	27		<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に外部講師の研修を受講している。・研修担当講師に療育現場へ入って頂き、適時質問できたりする。・実際に職員と一緒に療育に参加して頂き、子ども達の対応を具体的にについて具体的に指導を受けている。・5名いる外部講師より研修を受けている。・外部講師を招いての研修会を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スキルアップのため必要。日課や業務、休憩時間などを考慮し、全職員が参加できる形を目指していく。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	27		・アセスメントシートを活用して個別支援検討会を実施している。・面談で保護者と確認している。・年に2～3回、面談日を設けアセスメントを行っている。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	23	4	・アセスメントシートを活用し行っている。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	24	3	・職員全体へ周知していく事は課題。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	26	1	・一日1項目記入する個別記録は支援に沿った目標が毎日確認できる。・支援目標が見える形にしている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	23	4	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度よりグループ会議や朝礼後等全員で行うように改善した。・子どもたちに何を体験させたいか職員で話し合い立案している。・造形、食育、リトミックなどチームで話し合いを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムの立案と、確認できる形の記録など整えていく。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	26	1	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの好きなあそびを取り入れて考えている。・努力は必要。・子どもの様子に合わせて変更している。・その都度変更し一人ひとりを見つめた活動を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設長、主任、リーダー等、複数の視点で計画案を確認し実践していく。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	24	3		

17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	27			全体では前日に確認している。
18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	26	1	・記録用紙、記入方法等は常々検討課題と感じている。・毎日の療育終了後振り返りを実施している。・毎日行っている。	
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	26	1	・個別に行動の記録を記入している。	
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	24	3	・送迎時も活用して保護者との口頭でのやりとりも大切にしている。・親子通園児等に直接確認することが多い。・定期的実施している。・定期的に行っている。	

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	22	5	・ケース担当者があり、その者が関わってる。	・ケース担当以外が参加する事もあるが、会議の内容を職員全体で周知できるように終礼などの機会に報告を行っていく。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	26	1	・発達支援広場での業務を行っている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	24	3	・現在、該当者なし。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	25	2	・現在、該当者なし。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	26	1	・保育所等訪問で幼稚園、保育園へ行き様子を見たりアプローチ方法を確認している。・かけはしシート、引き継ぎ書の活用。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	27		・かけはしシート、引き継ぎ書の活用。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	26	1	・研修に参加している。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	27		・近隣の幼稚園と交流を行っている。児発事業所、近隣の幼稚園などと交流している。	・近隣の幼稚園と交流を行っている。保育園児の来園もある。・現在は年長児を中心に活動を行っているが全園児も交流できるような工夫が必要。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	23	4		・会議の内容等は全職員が周知できるように終礼などで主任職員らが伝えて行く。また、その内容も全職員が周知できるように終礼などの機会に報告を行っていく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	27		・お便り帳などを活用している。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	23	4	・入園予定の保護者を対象に実施している。・自身では行っていないが記録などを見て保護者の把握に務めている。	・ペアトレの内容を知らないため、内容、参加保護者の様子等を打ち合わせ、終礼などの機会に伝えて行く。

保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	21	6		・ペアトレの内容を知らないため、知る機会が欲しい。 ・変更点や新入園時以外への説明不足があると思われる。 ・運営規定の説明は職員会議で全職員に伝えて行く。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	26	1		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	27		・定期に加え、適時実施している。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	27		・母親教室、父親参観会の実施。懇親会も行っている。	・利用者の負担になっている事も考えられるため、会員(保護者・特に役員)の負担感などを適時担任職員らが確認していくよう務めていく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	27			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	26	1	・園だより、グループだよりを発行している。 ・月に一度以上、お便りを配布している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	27		・プライバシーに関するアンケートを実施している。 ・十分に注意し、不要な物はシュレッダーで処分している。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	27		・お便りに下線を引く、ルビをふる等の配慮を行っている。 ・毎日の生活記録やお便り帳を活用しやり取りしている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	27			地域の人達を招く、交流する等の機会を餅つき、みかん狩り、研修会などの事業で整え考えていく。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	27			電話連絡網は効率が悪い。携帯番号はプライバシーの配慮が大きい。取り扱いについては十分に留意するよう年度初めには保護者へ伝えて行く。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	27		・毎月、避難訓練を実施している。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	26	1	・引継ぎ時の確認を丁寧に行っている。・マニュアルを作成し全職員で周知している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	25	2	・対象児には配色された食器で配膳されている。・個別のアレルギー一覧表を作成し各クラス、事務所、調理室前に掲示している。	・研修会は定期的に行われ職員の知識、技能等をより高められる意識を持ち取り組んでいく。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	24	3	・終礼で報告している。・事例集はないが全体で周知している。	・作成はしているが共有は十分にできていない。・当月の報告書を翌月の職員会議で担当職員が報告し危機管理の意識を全職員で共有していく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	27			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	22	5		